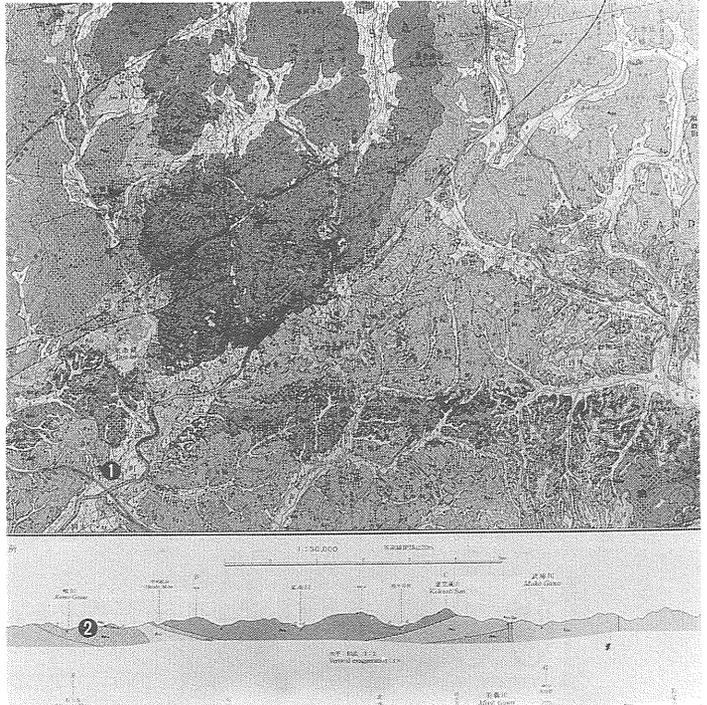


三田図幅は六甲山地の北側に位置し、地形的に北部の丹波山地（標高300-650m）と南部の三田盆地（標高150-300mの丘陵性盆地）からなります。三田地域の地質はこの地形の違いにほぼ対応して、丹波山地には白亜紀後期の火山岩類が、三田盆地には古第三紀後期と第四紀の碎屑岩類が分布しています。

北部の火山岩類は有馬層群と呼ばれ、大部分が流紋岩質の溶結凝灰岩からなり、その層間に少量の非溶結凝灰岩・流紋岩溶岩・湖成碎屑岩層が挟有されています。緩い褶曲が認められ、東部では東西方向、西部では南北方向のトレンドを持っています。研究報告書では、化学組成やモード組成などの岩石学的な資料とともに、溶結凝灰岩に含まれる黒雲母とカリ長石によるカリウム-アルゴン年代（それぞれ7000万年と7300万年）の資料などが豊富に盛り込まれています。

三田盆地の地質は、丘陵を形成する神戸層群（始新世最末期-漸新世前期）と台地を形成する大阪層群（更新世中期）に大きく分けることができます。

神戸層群は、砂岩・泥岩・礫岩及び凝灰岩からなり、一部亜炭層を含みます。地質図では岩相区分で表現されていますので、扇状地・河川・湖のどの環境で堆積したか分かるようになっています。また、岩相と同時代面を示す凝灰岩層との斜交関係によって、同時異相の様子もよく分かります。凝灰岩層からは3700から3300万年の放射年代が得られ、従来推定されていた神戸層群の地質時代（中新世中期）とは大きく異なります。



大阪層群は三田盆地の北東部と西部に分布し、主に礫からなり、一部砂・シルト層を含みます。大阪層群の最上位には堆積面（明美面）が形成されており、約1/100の勾配で北ないし西に傾いています。この堆積面の傾斜は、第四紀以降行われた六甲地塊の隆起傾動運動に伴って形成されたものです。

本地域は大規模な宅地造成が進み、阪神地区の大きなベッドタウンとなりつつあります。また、交通網の整備やゴルフ場を中心としたリゾート開発も進んでいます。このように大規模に開発が進む中、基礎資料として本図幅の出版の意味は大きいといえます。三田図幅周辺では神戸図幅と大阪西北部図幅が既に出版されており、併せてご覧になることをお勧めします。



5万分の1地質図幅の新刊

三田  
SANDA

5万分の1地質図幅 地域地質研究報告



著者 尾崎正紀・松浦浩久  
発行 工業技術院 地質調査所  
取扱先 東京地学協会 (03) 261-0809 262-1401  
日本産業技術振興協会 (0298) 52-3388  
そのほか全国主要書店

販売価格 2,900円

地質ニュース	第411号	11月号
昭和63年11月1日	定価 ¥ 650	〒実費
編集	発行	
発行人	工業技術院地質調査所	
発行所	林久雄	
	株式会社 実業公報社	
	東京都千代田区九段南4の2の12	
	〒102	
	Tel. (03)265-0951 (代表)	
	振替口座 東京1-32466	
	麹町局私書箱第21号	
総発売元	株式会社 実業公報社	

©1988 Geological Survey of Japan

●本誌は東京都中央区鶴八重州ブックセンター本店に常備してあります。